

会 議 録

会議名(審議会等名)	第10回小金井市男女平等推進審議会(平成29年度第2回)	
事務局	企画財政部企画政策課男女共同参画室	
開催日時	平成29年10月30日(月) 午後2時30分～午後4時00分	
開催場所	市役所本庁舎第一会議室	
出席者	委員	佐藤百合子委員(会長)、遠座知恵委員(副会長)、瀬上ゆき委員、 濱野智徳委員、本川交委員、松本千穂委員
	事務局	企画財政部男女共同参画担当課長 深草 智子 企画政策課男女共同参画室主任 岩田 幸一
	欠席者	浦野知美委員、小野寺千鶴子委員、日野絵里子委員、 森川覚委員
傍聴の可否	(可) ・ 一部不可 ・ 不可	
傍聴者	2名	
会議次第	別紙のとおり	
会議結果	別紙会議録のとおり	
提出資料	別紙のとおり	

第10回小金井市男女平等推進審議会（平成29年度第2回）

平成29年10月30日（月）

1 開会

【佐藤会長】 それでは、会議に先立ち、会長から委員の皆さんへお願いします。

記録作成上の必要から、発言の際は、お名前を名乗っていただきまして、ご発言を始めていただくようお願いいたします。

それから、傍聴者の方にお知らせします。傍聴席には傍聴者用意見用紙というのがございますが、ご意見がある場合はこの用紙にご記入いただき、事務局へご提出ください。

それから、いただいたご意見は、会長判断により必要に応じて審議会の参考とさせていただきますが、ご意見に対する質疑応答は、申しわけありませんが行いませんので、よろしくご理解ください。

それでは、男女平等基本条例第31条第2項では、委員の半数以上の出席があれば会議を開くことができることになっております。10人、定足数5人以上、6人ですので、開くことがぎりぎりできますので、開催させていただきたいと思います。

それでは、今日の議題ですけれども、報告事項、企画政策課男女共同参画室の事業、それから議題が、男女共同参画施策の推進について、1、推進状況調査報告書に対する評価について、それから2、今後の推進状況調査報告書の記載について、今後、報告書でどのような記載望ましいか、それから3、その他ということで、本日は資料として、1点が提出されております。男女平等審議会提言書はこちらの案ですね。

【事務局（深草）】 案を資料としてお出ししております。

【佐藤会長】 それから、次に、議題は、男女共同参画施策の推進についてです。資料はお手元にありますでしょうか。よろしいですか。なければ、このまま進行したいと思います。

2 報告事項

男女共同参画事業について

【佐藤会長】 では、初めに、企画政策課男女共同参画室の事業についてですので、事務局からご報告をお願いいたします。

【事務局（深草）】 それでは、企画政策課男女共同参画室事業についてご報告させていただきます。

まず、報告事項といたしまして、4点ございます。1点目といたしまして、かたらい46号を9月に発行いたしました。今回、特別企画といたしまして、テレワークを特集いたしました。働き方改革の中で多様な勤務体系となっていくことが予想されます。これからの働き方の1つとして、実際にテレワークで働いている方たちやテレワークを推進している方たちなどのインタビューを通しまして、情報紙で伝えさせていただいております。本審議会の佐藤会長と濱野委員にも、編集委員として参加させていただいております。

2点目といたしまして、9月30日土曜日に、多摩3市男女共同参画推進共同研究会による第2回の3市市民交流会と市民サポーター会議を開催いたしました。当日の参加者は13名で、国立市からは6名、その中に瀬上委員もご参加いただいております。

市民交流会では、小金井市在住の外国人の方の講演と外国人から見た日本の男女共同参画についてなど、グループディスカッションを行いました。市民サポーター会議では、私たちに身近な男女共同参画をテーマに募集したキャッチフレーズの中から1作品を選出し、キャッチフレーズを入れる啓発物品の選出を行いました。次回で今年度最後の会となりますが、12月に狛江市で開催される予定です。

3点目といたしまして、11月23日木曜日・祝日になりますが、市民会館萌え木ホールにおきまして、啓発事業であります第31回こがねいパレット「地球を歩いて感じた家族のカタチ」と題しまして開催いたします。お手元に緑のパンフレットをお配りしております。

講師として、探検家で医師であるグレートジャーニーとして活躍されております関野吉晴さんをお招きいたしました。当日は、賛同団体の皆さんの展示もございます。よろしければぜひご参加をお願いいたします。

4点目といたしまして、第8期男女平等審議会公募委員の募集を11月6日月曜日まで行っております。

事務局からの報告は以上になります。

【佐藤会長】 事務局の説明へのご質問、ご意見がありましたら、お願いいたします。よろしいですか。

3 議題

(1) 男女共同参画施策の推進について

ア 推進状況調査報告書に対する評価について

【佐藤会長】 それでは、男女共同参画施策の推進についてに移りたいと思います。(1) 推進状況調査報告書に対する評価について、参考資料が提出されていますので、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局(深草)】 本日、参考資料といたしまして、委員の皆様から既にいただきました質問をまとめさせていただいたものをお配りいたしました。あと、また、こちらは各課からの回答もあわせて記載しておりまして、2種類ございます。先ほどお配りいたしましたのは、各担当課順というものと、机上に置かせていただいておりますのは、主要事業順になっております。傍聴席の方にはお手元にご覧できませんが、参考資料ということで、まことに申しわけございませんが、ご了承願います。

そして、1枚のものになりますが、全般にわたる意見ということで配布させていただいております。こちらの資料につきましては、全て主要事業順のものにつきましては、メールにて既に委員の皆様にはお送りしたものを印刷したものでございます。

事務局からは以上です。

【佐藤会長】 ありがとうございます。それでは、皆さんからご意見を承りたいと思いますが、配付された資料をもとをお願いいたします。それで、ご質問に対しての回答が全部出ていますので、これをお読みいただければわかると思います。

それから、評価の記入例の書き方なんですけれども、実施内容と、それから効果というのと同じものを書いてあるんですね。それについては、次回からは効果のところをこちらで書いて、そして例にして載せていただきたいと思いますので、事務局よろしく願いいたします。

【事務局(深草)】 今回、事務局で示しました記入例がわかりにくかったというような反省点もございますので、29年度の進捗状況を報告の際に各課に示す際に、こちらは青い冊子に書いております記入例なんですけれども、工夫させていただいて、よりわかりやすいような形で示せればと考えております。

【佐藤会長】 1カ所はそこを修正していただくということになっておりますけれども、調査報告書の評価について、皆さんからご意見をお願いいたします。では、松本委員からご意見をいただいてもよろしいですか。

【松本委員】 報告書に対する評価という、これに対することですか。

【佐藤会長】 評価についてはまた後でやりますので、これに対してです。すごく以前より詳しく書いてくださったので、こういうふうに書いていただくとよくわかるという感じがいたします。各種相談業務をやりましたとか、そういうようなことではなくて、実施内容に男性何名、女性何名とか、そういうことは最低書いてほしいと思います。

あと、前年度と比べてどれくらい増えたか、減ったかということなんですけれども、事務局から、前年度と比べると非常に難しいというようなご意見もありましたけれども、これについては、また皆さんのご議論をいただきたいと思いますので、そういうことを入れたほうがいいのかどうかということも、つまり評価とは何なのかということも後で議論したいと思いますので、そこら辺も含めてご意見を承れればと思います。

【松本委員】 今日の内容によっては、昨年度の報告と今回の報告も変わらないということで、例えば11ページの99番と100番とか、昨年度の報告と今回の報告内容が変わっていなかったため、何かしらの進展について、記載をしていただいたほうが良いのではないかと思います。

【佐藤会長】 そうですね。昨年度の報告書と全く変わらないということを書いたのは、とにかく同じことがざらざらと述べられているだけなので。

【松本委員】 部署によっては、仕事の内容が毎年変わるものではないのかもしれないんですけれども。

【佐藤会長】 実際にそうかもしれないけれども、今年はどういう感覚、視点からやったとか、そういうことを書いていただいただけでいいのかなという感じはしますね。

【松本委員】 自己評価欄について、もう少し具体的に書いていただいてもいいかなという印象を持ちました。

【佐藤会長】 では、本川委員。

【本川委員】 回答の仕方というのがあって、会長からは、詳しく書いていただければわかりやすいという、ごもっともだと思うんですけれども、ピンポイントで自分たちのしたことが評価というのを出せるような形というのはできないかなと思います。それくらいかもしれません。

【佐藤会長】 そうですか。もう少し何かないですか。

【本川委員】 難しい。

【事務局（深草）】 内容が1つの事業に対してボリュームが多いところと少ないところ

があるというご意見でしょうか。

【本川委員】 書く人の性格によるものや中身にもよりますけれども、ボリュームの多いところと一言で済んでしまっているようなところがあったりするので、どっちがいいとも言えませんけれども、読む側はそれを見せていただくわけですね。わかりやすい方法というのが何かとれないかなとずっと思っていましたので申し上げさせていただきました。

あと、評価の回答の仕方というわけではないですけれども、AとBしかないみたいなものだと、評価する必要性というのでしょうか。そういう事業をやっている主管課が感じているのかどうかというのが、私たちには読み取れないなというのがありまして、何とかならないのでしょうかと思いました。そんなことでよろしいでしょうか。

【佐藤会長】 ありがとうございます。瀬上委員、どうぞ。

【瀬上委員】 例えば2ページの2の男女共同参画を推進する教育学習の推進、18番、19番、20番あたりで、意見として昨年度の報告書と全く変わらないという回答が、研修の対象者は新任教員であり、毎年受講者が異なることから例年同様の報告となりますとあるんですけども、教育とかだと、最近、話題になっているLGBTのことを入れているのかなとか、毎年微妙に変わっていく、内容的にも変わっているはず、変わっていくべきだと思うんですね。それで対象が毎年新しい人だから、全く報告内容が同じというのは、ちょっとどうかなという、あとほかのところにも結構似たようなところがあって、ぱらぱらと見たところで、昨年度の報告書と全く変わらないというので、事業内容は昨年度と同様の取り組みを継続して行っていますと書いているところが幾つか、ぱらぱらと見ただけでもあるので、その辺は、同じことをやっても、変化というか、何かないのかなというのを書いてほしいなと思いました。

【佐藤会長】 そうですね。私もこの回答を見て、えっと言ってびっくりした。

【瀬上委員】 先ほど、経済課がわりと丁寧に書いていて、やはり丁寧にちゃんと書いている課と、そうでない課があるなと思いました。

【佐藤会長】 私も、指導室は、本当はヒアリングしたかったんじゃないですか。

【本川委員】 やってください。やっていただきたいと思います。

【瀬上委員】 教育部がこれかなという感じもするんです。

【佐藤会長】 それから、経済課は、やっぱりかなり詳しく報告はしてありましたけれどもね。ほかにはありませんか。

【瀬上委員】 一応そんなところですか。

【佐藤会長】 よろしいですか。じゃ、濱野さん。

【濱野委員】 労保セミナー、25番、26番ですかね。ワーク・ライフ・バランスのところの経済課の労保セミナーは、他機関で多数実施していることから、単独で行わなかったということになっているんですけども、機関で多数実施といっても、そんなに自治体のものほどは多分やっているのは見ないので、これは予算をとってやってもらったほうがいいのではないかなとは思いました。

【佐藤会長】 他機関って、どこで多数実施しているのかなと、私も、あれっと思いました。

【濱野委員】 そうですね。商工会などでたまにやっていますけれども。

【佐藤会長】 そんなに多数やっているとは思えない感じは私もしました。

【濱野委員】 多分、経営者向けのものなどが結構多いと思うんですよ、そういうところでやっているのは。なので、就労側向けがどれぐらいあるのかなということなんですかね。

あとは、75番のひとり親助成相談のところの人数が、女性1,094件、男性7件となっていて、ものすごい開きだなと思ひまして、実態がそうなのか、タイトルが母子となっているから、父子家庭というのはあまり対象にしていないのかなというところですかね。なので、もしかしたらタイトルも変えたほうがいいのかもしいかなもしれないですね。

【佐藤会長】 これは、母子・女性相談の充実と書いてありますけれども、このごろひとり親は父子も多いんですよ。

【濱野委員】 そうですね。

【佐藤会長】 本当に。だから母子はすごく手厚く受けているけれども、父子でも収入に違いがあるので、これは私もやっぱり何とかして、1,094件、7件というのは、ちょっとこれは男性が少な過ぎるなという感じはしましたけれども、名前を変えてもらうことはできないのかなと思って、そういう感じはしますね。

【事務局(深草)】 こちらがと言うことですね。4次の計画の事業名、主要事業として、母子・女性相談となっております。今は母子・父子というふうに、事業の名称を変えてきておりますので、今回の第4次の計画は、そうなっているのですが、あと、また事業の対象者は、母子だけに限ってはいないので、現在、事業名のところは確認してみないとわからないのですけれど。

【佐藤会長】 だから母子・父子だけじゃなくて、おじいちゃん、おばあちゃんのこと

もあるし、そういうことを考えると、ひとり親だけじゃなくて、産みの親ではない人に育てられている子供の場合も対象だとか、少し広げたほうが良いような感じがしますね。

【事務局（深草）】 そのこのところは、視点としましては、母子・父子以外の方ということになりますと、まだなかなか広がりはないかとは思いますが、今後そういった方も増えれば、自然と増えていくとは思いますが、現在では母子・父子という表現に変わっていったということが最近の動きですので、まだこれからということかと思えます。

【佐藤会長】 濱野さん、それでよろしいですか。

【濱野委員】 はい。以上です。

【佐藤会長】 副会長、お願いいたします。

【遠座副会長】 私も75番のところの数字の回答をいただくと、こんなに開きがあるのかというのがまず驚きというか、名称の問題なのか、そういう部分もあるのかなと確かにそういった気がします。

それから、私は、さっきのヒアリングでも結局出たことなんですけど、例えば11ページに、地域連携の推進というところに星印がついて、これが重点という位置づけになっているんですけども、内容は昨年度の報告書と変わらないという感じなので、どういう意味で重点なのかが、重点と言われているものがよくわからないというのがあるんですよね。なので、さっきヒアリングでお話を伺って思ったことというのは、施策レベルでは重点になっているけれども、それぞれの事業レベルになると、認識が確かに自分のところでそう受けとめられているかというのは、ちょっと見えにくい部分もあるというお答えだったかと思うんですけども、事業レベルと重点施策のレベルを一致させていくということが重要なのではないかとお話を伺っていて思ったんです。なので、今回の提言書をどう書くかということと絡めて考えていたんですけども、そういうことがこれからの課題の1つなのかなと感じました。

【佐藤会長】 ありがとうございます。私も、1つは、昨年度の報告書と変わらないというところがちょっとぴんときませんで、事業内容は、昨年度同様の取り組みを継続して行っていますということなんですけれども、広域的連携の推進ですよ。国と近隣自治体、それから警察、民間支援組織等の自治体、こういうようなことをばらばらにやっているのかどうかというのが私もよくわからないんですけども、例えそれぞれにやったとしても、広域的連携の推進ということが一体どういうことなのか、ただ関与するというだけで毎年終わらせているのかと思ってしまうわけですよ。だから広域的連携の推進、例え

ばここだと近隣自治体だと、狛江と国立と3市などもあるだろうし、それから全く周りの自治体との会議もあるだろうし、都の講演会もあるだろうし、国のものもあるだろうと、毎年違うと思うんですよ。だから昨年の報告書と全く変わらないような書き方をされていると、何をしていたのかなという感じにはなりません。

それから、その下のストーカーとかですけれども、個人情報保護の推進ということも、保護の推進を警察とか、各自治体の中でどう進めるかということなので、単なる推進ではないですね。だからここであるのは、セクシャルハラスメントの防止の推進もそうですし、子供、高齢者、障がい者に対する虐待防止の推進もそうなんですけれども、結局、具体的にどうやるかということが見えてこない、だからいつまでも事件は起こるし、増えていくということが私はすごく気がかりなんだということがあります。

それから、あとは、全般的にそうなんですけれども、男性、女性に何部配って、男性、女性が何人来たか、数字的なことは、書けるところは全部私は書いてほしいなという感じがしました。そうしないと、何をやったのかわからないということです。

それと、あと気になったのは、2ページの10番、人権に配慮した市刊行物の作成のところですけども、広報秘書課も一緒に男女のバランスのとれたイラスト、写真とはどのようなものかと書いたんですけども、回答をいただいてわかりました。なので、男女いずれかに偏った表現、だからこう書いてくださればいいのであって、書き方もちょっとあるかなという感じがしています。そんなところですかね。あと、たくさん書いて、よくわからない。

【事務局（深草）】 先ほどの会長からお話がありました男女別のところで、配架したものに対しての配布数というんでしょうか、そちらというのは、それぞれ男性に何部とか、そういうお話でしょうか。

【佐藤会長】 そうです。だからそれをとれるところととれないところがあるのはわかっていますから、とれないところは結構です。でも、とれるところで書いていないところがあるので、それはちゃんと書いてほしいなと。

【事務局（深草）】 机の上に一定の場所がありまして、それと似ている状況ということになると、なかなか男女というのは、それは難しいと思うんですけど。

【佐藤会長】 とれません。だからそれはわかります。男性何部というのは。

【事務局（深草）】 あと、実際にわかるというところが、どういうケースなのかがかえって、男性に何枚、女性に何枚というのが、会議などでしたら配付部数というのは把握で

きるものがあります。

【佐藤会長】 ええ、会議とか講演会とか、そういうところだとわかると思います。

【事務局（深草）】 そうすると、講演会の出席者数に近い数字になります。

【佐藤会長】 それはそれで構わないと思います。出席者も書いてあるところと書いていないところがあったので、それは書けると思うんですね、どこだって、出席者については。

【事務局（深草）】 男女の区別があるアンケートをとっているような場合ですと、書けるとは思うのですが。

【佐藤会長】 いやいや、だって、講演会だって書けるじゃない、出席者について。

【事務局（深草）】 出席者としては書けます。

【佐藤会長】 だからそういうようなところは全部書いてほしい、そうしないとわからないですよ、結局ね。ここで男性が少ないとか女性が少ないというところを、そこでやる人たちはわかるかもしれないけれども、こちらの評価するほうにとっては、それはわからないですよ。ただ実施しただけではわからない。それは評価にしたら、それは去年と同じかどうかはわからないけど、BかCでしょうね。というようにつけるしかないでしょうね。

それから企画政策課の中で、最初に男女平等都市宣言の浸透とか、男女平等基本条例の規定とか、人権・男女平等に関する各種啓発資料の作成、活用、人権・男女平等に関する図書、資料の充実なんてありますけれども、これは3つぐらいにはできないんですかね。男女平等都市宣言の浸透と、それから人権・男女平等に関する資料の作成と内容が同じなんですよね。だから男女平等都市宣言の浸透というのは、今までの話を聞いていると、これは重点項目になるでしょう。

【事務局（深草）】 大きなところとしては、市の宣言の部分になりますので。

【佐藤会長】 ここに主要事業として浸透で、こがねいパレットとか、それから、かたらいの発行部数というのは、3番だけでいいんじゃないかなという感じはするんです。

【事務局（深草）】 こちらは、実施内容と効果の理由のところそれぞれ数値が入っており、報告させていただいているようなことになっていますので、その辺も次回の報告は、整理させていただいて、提出させていただくようには考えております。

【佐藤会長】 そうですね。だからもしこれを別とするんだったら、3番は部数を何部発行したとか、そういうことを書くべきですし、浸透というのは、これは多摩3市のフォ

ーラムのことを書くということですかね。多摩3市の27年度のフォーラムと比較すると、114名の減、27年度との比較は20名減と書いてあるので、そういうことを聞いているんですけども、男女平等都市宣言の浸透というのは、これはここの主要事業のところに持ってくるべきものではないのではないですかというのが1つあります。

【事務局（深草）】 第4次の計画の事業ということで載っている項目になりますので、こちらは今回評価の対象となっておりますが、来年度の第5次ということになりますと、この文言は直接出てきておりませんので、今回限りということになるかと思います。今回は第4次の計画の関係がありますので、評価の対象としています。

【事務局（岩田）】 去年、審議会で計画をご検討いただいたときに、男女平等都市宣言とか、基本条例の普及ということで、主要事業に入っているところをきちんと整理しようというお話をさせていただいたかなと思うんです。現在の計画の事業名としては、人権に関する啓発資料の作成、活用ということで事業番号1、(2)で男女平等に関する各種啓発資料の作成、活用ということで、この中で例えば2番の男女平等に関する各種啓発資料の作成、活用ということで、かたらいの作成、あと、こがねいパレットの記録書類発行、そういったことの部数等を載せいただくという形になるのかなと思っています。

施策の2で、今度、男女共同参画シンポジウムの開催やこがねいパレットの開催ということで載せていますので、こちらで講演会の参加者の人数等を記載させていただくという形で、昨年度の審議会でこういう形でおまとめをいただいているのかなと理解しております。

【佐藤会長】 確かにそうですけれども、ほかに何かございませんか。どうぞ、ご自由に。

【本川委員】 よろしいですか。今年の意識調査はこういう形で、昨年度実施のことについて今年のものということですね。いろいろ見直してというか、ご自分たちで自己評価して出てきたんですけども、今の話を聞いていて、この調査をする時期にもよると思いますが、そういうことを踏まえて、次年度はどうしようかなという発展的目標みたいなのが、どこかに出てくるといいかなとは思いました。だから調査書の形態を考えないといけないと、私の今ことを取り上げていただくとすると、そこから考えないといけないと考えます。単にA、B、Cでご自分たちを評価する、BだったらAにするためには、ここのところを努力してみようとか、こういうことを入れてみようというようなことが具体的に出てくれば、もう少し目的とする、また目標とするものに対する意識がはっきりしてく

るのではないかと思いましたが、その他のような意見ですけれども、またいずれお考えいただけるとありがたいなと思います。

【佐藤会長】 今のご意見は、2番目の今後の推進状況、調査報告書の記載についてのごことでございますので、皆様、そちらに移らせていただいてよろしいでしょうか。

イ 今後の推進状況調査報告書の記載について

【佐藤会長】 それでは、2番目の今回の報告書を踏まえ、どのような配慮が望ましいかについてということですが、評価できた点と努力してほしい点、それから今後の事業評価をするに当たり、どのように配慮してほしいか、記載してほしいかなど、皆さんからのご意見をお願いいたします。

【本川委員】 それと、もう一つですが、男女共同参画室に関してお考えいただければいいかなと思うのは、この前のコンサートや、パレットもそうですけれども、非常に皆さんの目に触れるいい機会ではあるのですが、コンサートが主体になってしまって、男女平等推進というようなことをもっとPRできる場所にある時間を使ってもいいのではないかと、メディアなり、講演会、コンサート、それからパレットのようなイベント、そういうものをもう少し上手に利用するような方法というのを考えられると、より浸透していくかなと思います。

ちょっとずれて申しわけないんですが、言葉は知っていても中身がというのが、本当に私も含めてなんですけれども、理解し切れていないところがたくさんありまして、そういうものを少しでもやっていくためには、目に見せ、それから言葉で触れてもらってというようなことが、機会が多いほうが大事かと思っておりますので、あらゆる機会を利用してそういうものを考えていくという、そういう場所を審議会が、こういう場所もありますよ、ああいう場所もありますよ、このときにはこうしたらどうですかというようなことに、企画の部分を担当していらっしゃる方もあるけれども、審議会の立場として、そのようなことも考えさせていただくことがあったらいいのではないかと考えました。

【佐藤会長】 つまり、いろいろな場を設けてほしいということでもよろしいですかね。

【本川委員】 場を上手に使ったらどうですかと、今あるものでいいので。

【佐藤会長】 この前の音楽会はどうだったの。私も出られなかったんですけれども。

【本川委員】 この前の音楽会はすばらしかったですよ、中身。私は拝見しましたけれども、いらっしゃいましたっけ。

【濱野委員】 そうですね。私も行きました。

【佐藤会長】 男女共同推進のことについてはどうだったんですか。

【本川委員】 男女平等推進についてはなかったと思います。

【事務局（深草）】 女性作曲家というところにスポットを当ててのコンサートということですので、今まで確かにクラシック音楽の作曲家は男性が多く取り上げられていたということで、「かたらい」の中にも載せさせていただいておりますが、そういったところで、実は女性もこれだけ活躍していたんですというところで、女性の活躍を紹介していただくというきっかけとして今回コンサートをしていただいております。その中でより多くの方に集まっただかくかということと、あと、男女共同参画をいかにその中の方たちに浸透させていくかというのは、私どもとしても、そのバランスの部分が非常に難しいなどは感じているところではあります。今いただいたご意見を参考にさせていただきながら、そういったPRを少しでもということには心がけていきたいと思いますが、またそこが全面に出してしまうと、今度なかなか堅苦しいイメージというのがどうしてもありますので、ご参加いただける方は減ってってしまうということも懸念される部分でもあるのかなと思いますので、そこはちょっと考えさせていただければと思います。

【佐藤会長】 だから始まる前に10分でもいいんですよ。

【本川委員】 丸ごと男女平等推進の講演会といたら、かた苦しくなるかもしれないんですけども、女性を取り上げた今日はなぜ女性に焦点を当ててこういう音楽会を開いたかということ、少し説明する中で、男女平等推進というような意味合いが言葉としてどうするかは別にしてまして、そういう大きな目的があつてのコンサートなんですよというようなことを、本当に5分もかからない、3分ぐらいでお伝えできたら、男女平等というようなことはインプットされるのではいかなというようなことです。

【事務局（深草）】 講演会やコンサートの目的をもう少し明確に、そのところでしょうか。そこは少しお伝えできるような形で工夫をさせていただきたいと思います。

【佐藤会長】 ですから一番最初に、なぜこのような音楽会を開くのか、なぜこのような講演会を開くのかということの説明をなされればいいんですよ、5分で結構ですから。

【本川委員】 そう思いました。

【佐藤会長】 だから、単に音楽会を開くだけで、女性のと言って男女平等と思う方というのは、半数もいらっしやらないと思うので、こういうような形で開かせていただきましたと、5分ぐらいあればいいわけですよ。それで音楽会に移ればいわけですから、と

いうことを考えてくださいということだと思いますので、それはパレットもそうですけれども。

【本川委員】 パレットも同じだと思います。

【佐藤会長】 今度5分ぐらいかけてグレートジャーニーの探検家が考える「家族のカタチ」ですけれども、一体何でそれをこがねいパレットで取り上げるのかというのは、こがねいパレットのリーダーの方にご説明いただいたほうがいいと思うんですよ、5分ぐらい。そうしないと、何でこの人を男女共同参画で呼んでくるのかというのは、何でこの人を呼んでくるのか私も最初思いましたから、来る人はみんなそう思うと思うんですよ。それは説明なさったほうがいいと思います。

【事務局（深草）】 こちらの企画がほぼ全て固まってしまっておりまして、あとは開催するという状況でして、実行委員長がいらっしゃいますので、その方とお話をさせていただいて、ご挨拶の中でそういったところを実際に少し取り入れていただけないかというようなことは働きかけますが、あくまで市民参加、市民による実行委員会というところの位置づけがありますので、その辺がどこまでかということ、この場では申し上げられないんですが、そういった事は行っていきます。

【佐藤会長】 でも、だって男女共同参画室がやっているわけでしょ。

【事務局（深草）】 そうですね。

【佐藤会長】 それをだって基本に置かなきゃだめじゃないですか。それはそう思いますよ。それをわかってもらわなければと思います。

【本川委員】 これをやる意味合いというのはね。

【松本委員】 つい先日無意識のバイアスをいうリーフレットを読んだんですけども、オーケストラの例が出ており、学校に通う人数には男女差がそれほどないにも関わらず、実際にオーケストラでプロとして働くとなると、女性の数が減ってしまうということがあられるようです。アメリカのケースだったと思うのですが、ブラインドテストを行ったら、オーケストラに合格する男女比率が改善されたという事例があるみたいですね。例えば、そういった内容のものを配布物に挟んで一緒に配るなどのような対応はできるのではないかと思います。

【佐藤会長】 そうですね。よろしくお願いします。

それでは、今後の事業評価に当たりましてどういうことに注意したらいいとか、努力してほしい点とか評価できた点、今年の評価において皆様のご意見をいただきたいと思い

ます。済みません、濱野さんからよろしく申し上げます。

【濱野委員】 今日の資料を見たらかなりわかりやすくなったので、こういった内容をこちらの調査報告書にも盛り込んでいただくように、これを例に書いていただくようになればいいんじゃないかなと思いました。

以上です。

【佐藤会長】 ありがとうございます。瀬上委員、いかがでしょうか。

【瀬上委員】 ただ評価というだけでなく、例年より変化したこととかも加えられるような、ただ効果だけでない変化とかも記入できる項目を入れてほしいと思います。

【佐藤会長】 そうですね。本川委員、いかがでいらっしゃいますか。

【本川委員】 先ほど申し上げてしまいましたけれども、ご自分たちが次期に向けてどういう目標を持ってやるかというようなことを少し書いていただけるような場所ができるといいかなと。

【佐藤会長】 目標ですか。

【本川委員】 ご自分たちが項目の今年やったことを踏まえて来年度はというような、そういう意味合いのことを書いていらっしゃる場所もあるんですけども、大体は今年に対しての自分たちなりの評価だと思うので、それを踏まえて次期どういう目線でいこうかというようなことも書けるようになるといいと思いましたということです。

【佐藤会長】 用意してありますよね、次期の評価については。

【事務局（深草）】 こちらの次期の内容といいますと、今後の課題や推進の方向性というところはでしょうか。

【佐藤会長】 今後の課題とか、書けるようにはなっているんですけども。

【事務局（深草）】 欄としては設けておりますが、引き続きというような回答があるというご指摘でしょうか。

【佐藤会長】 あるんですよ。だからそれを引き続きじゃなくて、どういう視点でやるかとか、そういうところの議論は大変だとは思いますが、それを少し載せていただいたほうがいいかもしれません。

【事務局（深草）】 こちらからお伝えさせていただきたいことといたしましては、私どもの男女共同参画室と比べまして、主として行っている取り組み、施策がある中での男女の共同参画の視点という取り組みをしている事業が多くある中で、来年度どうやって変えていきたいと思いますかとか、ここをこうしていきたいと思いますというようなところは、主となる事

業がある中でとなりますと、取り組みがなかなか難しく、今年度のものを継続している、それ以上のものというところまで取り組むことがなかなか難しいというような現状も各課ではあるというところは、ご理解いただければとは考えております。その中でも何か工夫ができるものについては、各課なりにそれぞれ工夫をしていると感じております。

【佐藤会長】 書いてあるところもありますからね、そういうようなところが。書いていないところに何か書いてほしいとおっしゃるのかもしれないけれども、それは例えば経済課みたいなどころだと、なかなかそうは。

例えば本当は人を雇うことになるんだったら、そこにおける男女共同参画は入れても、そこら辺のところは人を雇うということに関して何かやりたいと言ったときには、そこは書けないですね。

【本川委員】 そういうことも重々承知はしているんですけども、これだけの時間と作業量をかけて、各課がこのことについて言ってくさっているわけじゃないですか。それに対して、あ、そうですかと言うのも1つです。また来年は同じようにやってもらえばそれでいいですよというのも1つなんですけれども、男女共同参画室が取り組んでいることは、少しでも男女平等推進にみんなが目を向けてくれたほうがというようなものを持っているわけじゃないですか。だから、それを少し理解していただくためにも、たまたま男女についてこういうことをしているのであれば、来年はどうやってみようかなというようなところがあればということで、強制的にお返事をいただくという必要もないとは思いますが、意識づけということでは大事なことなのかなと感じたものですから、発言させていただいたので、無理な部分もあるでしょうし、でも、そこを工夫して何か実現できるようなことがあれば、もっとよりよいとお受け取りいただければと思います。

【佐藤会長】 ありがとうございます。では、松本委員、よろしく申し上げます。

【松本委員】 全ての事業に該当するわけではないと思うんですけども、先ほどのヒアリングで会長がお話されていたように、男女比ですとか、何かのときにアンケートなどの簡単な調査をするというだけでも経緯や状況がわかって良いと思います。実際に本学でもそのようなセミナーをした時に、例えば、男子学生さんから、ダイバーシティという面からは理解できるが、女性を雇うことによるメリットというのはどういったところになるのか、というコメントが出たことがあります。既にやられている部署をあると思いますが、アンケートなどの取り組みを行っていただくだけでも、男女共同参画に対する質問に対する回答などにも反映できるのではないかと思います。

【佐藤会長】 ありがとうございます。言いたいことを皆さんがおっしゃってくださったので、全般にわたる意見、自由記載欄という1枚がございましたけれども、今回の報告書というか、いい点については、平成27年度と比べてわかりやすくなっている点とか、細かく記載している点があった、それから2つ目に、検討を依頼した事業内容の人数や回数
の記載について改善するために具体的に理解することができた、それから今回の質問表で聞いたところ、具体的に書いてくださったところもあったので、よりよくわかるようになりました。自己評価欄を取り入れたことで、どんな取り組みに特に力が注がれているのかがわかりやすくなったということで、質問に対する答えなどを取り入れて実施内容に書いていただければ、非常にわかりやすいものになるだろうという気がいたします。

それから、全体的に効果をうまく書けているところがあったというところは、そういう部分もあったということで、中には実施内容と同じ内容を書いているところもありましたので、これは事例記載のところを直していただけたらなという感じはいたします。

それから、実施内容の記載について、これは今度は改定ですけれども、全般的に前年度何%伸びたのか、減ったのかを書くべきだ、これは後で議論いたします。より具体的な表記になったものもあるが、依然として昨年度のものと同様に文面評価は全く同じで、そうしたものにということもありますし、昨年と同じに実施したと書いてあるところもありますし、それも読んで、あ、そうかとわかったところと、それから全然そういう答えが書いてあってもわからないところというのがあるのは事実です。

それから、重点施策に位置づけながら全ての事業の自己評価がBの部分がある、今後この点の改善が必要である、つまり、なぜ重点施策に位置づけたかというところが、そのところは全部Aにしなければいけないのに、なぜBになってしまったのか、特に企画政策課のところとそういう点がありますので、これも後で議論したいと思います。

それから、待機児童解消に向けて大変努力されていることを評価します。今後も引き続き児童の解消に向けて一層の充実に取り組むことをお願いしますということで、38、39と書いてありますけれども、保育課の38、39については特によかったと記されております。

それから、その他で第5次男女共同参画行動計画、第4次に引き続き、ワーク・ライフ・バランスを加えてほしいという第5次行動計画となったということで、ワーク・ライフ・バランスは非常に重要だということはありません。

この中で、全般的に前年度何%伸びたのか、減ったかを書くべきであると言いましたけ

けれども、事務局からこれに対して何かご意見があったらおっしゃっていただきたいんですけれども。

【事務局（深草）】 こちらの増減の記載についてなんですけれども、増減の記載をするということになりますと、減った理由というのはさまざまな要因が重なったということによって、事業課としては、同じことをやっていたけれども減ってしまったというような状況もあると思います。そして、どうしてもこういう評価として表に出るところに対して、なかなか書きにくいというところもあるとは思いますが、そこがなぜ減ったのか、どうして増えたのかというところまできちんと検証できれば、解消されていくのではないかと、理解してもらえないのではないかなとは考えております。こういった減ったか増えたというところだけで評価しているのではないですというところを各事業課にもきちんと伝えていくことが必要かと考えてはおります。

【佐藤会長】 これに関してご意見はいかがですか。厳しいことを言ってしまうと、増減、それははっきり書くべきだとは思いますが、つまり同じことをやったというのは、全て同じかと言われたら、そうじゃないことかもしれない、だから同じことをやっているように見えても同じじゃないので、それは何か原因があると思いますし、あるいはそのときの状況が、例えば天候とか、そういうこともあるとは思いますが、いろいろ考えられると思いますけれどもね。

【事務局（深草）】 パンフレットの配布数などということになりますと、どうしてもそれを主としてやっている事業課でない場合につきましては、状況によってパンフレットの配架数というんでしょうか、実際にとっていただける数というのも変わってきてしまう場合もありますし、そちらの数値が、イコール効果を図る基準、多く配れたから多く浸透しましたとなかなか言えない、男女共同参画の意識というのは、すぐに効果が出るものではないというところがございますので、そこがイコール効果をはかる指針となるかというところを言いつつも、その理解しにくい部分もあるというようなものも感じてはおります。

【佐藤会長】 一、二年で効果が出ないものを、では、どうやって、何年ぐらいをめどに効果をはかるんですか。

【事務局（深草）】 そちらは、市としましては、基本構想ということで、後期基本計画を5年間定めておりますので、5年間で一定考えていくというようなところもあるかと思っております。

【佐藤会長】 だから考えていただけじゃ効果はわからないでしょ。アンケートでもしますか。

【事務局（深草）】 アンケートというところは、そこまでは今は予定しているところではないので、ここでアンケートをとらば申し上げられないんですけども、何年かの1年、2年というところではないというのは確におっしゃるとおりでして、もうちょっと長い期間を見て社会がどう変わっていくかというところなんではないか、そういったところも必要があると思います。

【佐藤会長】 社会というより、小金井市がどう変わったかと、小金井市に住んでいる人がどう変わったかというのが、小金井市役所の目的ですよ、男女共同参画のね。だから小金井市民がどう変わったかというのはどうやってはかりますか。

【事務局（深草）】 そこはなかなか一概にこういった基準でというのは、今までそこがこう変わりましたというところがありませんので、計画を立てる際に、市民アンケートをとった上で計画を立てて、そういった中で変化というのがアンケート項目なども、時代によりまして若干変わっているもの、ベースとなるものもあるようですが、そういったものを1つの効果なり基準なりというようなところに持ってくることも可能なかなと考えております。

【遠座副会長】 アンケートをもっといろいろなことに活用できないのかといつも思っているんですけども、私たちが次の計画を立てるときとかにも、結局あれを使ったほうがいいんでしょうけれども、あれを使って考えているというよりも、別のものを行っているという感じになってしまっているの、一連の何年間かけてやっていく一サイクルをうまく結びつけて考えられるように、いろいろ見直したほうがいい、全部一気にやるのは難しいと思うんですけども、評価、意識調査、全部うまく結びつくように考えないと、ちょっと難しいのかなと感じています。これはすごく大きな話で、今年度のということではないんですけども。

【佐藤会長】 何かご意見ありますでしょうか。

【遠座副会長】 今年度に関してはどうしましょう。よかったことというのは、さっき事業番号38、39で、具体的な実施内容では、これを1点挙げてくださっているのと、あと評価の形式の改善とかが挙がっていますけれども、ほかに何か事業でこれはよかったとか、もしあれば挙げておいていただいてもいいかもしれないですね。

【佐藤会長】 そうですね。

【遠座副会長】 せっかくやっけていただいていることなので、よかったことを。

【佐藤会長】 いいことはいいとちゃんと評価しなくてはいけないので、何かありますでしょうか。これはよかったという、こういうような書き方でよかったとか、何かありましたら。いつも注文ばかりで申しわけない。よかったところはよかったということで、ちゃんと評価しないといけないと思いますので。

【遠座副会長】 私は、ここに今日の資料にはないんですけども、経済課の33番で、就業機会拡大のための支援、情報提供のところに、女性の就労支援で平成28年度は新しいことを実施したと書いてくださっていたので、新しい取り組みというのが評価できるし、それに対して女性のニーズが高いということもその報告書からわかるので、その点が評価できるし、今後も引き続き力を入れていただきたいというようなことで、夏ぐらいに拝見したときには思ったんですけども。

【佐藤会長】 33ですね。新しい取り組みですね。

【遠座副会長】 そうですね。新しいことをやっけてくださっているというのは、基本的に評価に値するんじゃないかと。

【佐藤会長】 どうでしょうね。いいところがありましたら。何かご意見をお願いします。

【濱野委員】 そうですね。先ほどの遠藤副会長の一連の流れがということに関して、第4次の結果を取りまとめる前に第5次の計画をつくっているスケジュールだと思うので、それをうまく、第4次の結果を見てから、取りまとめてから第5次の計画をつくるように本当はしたいですね。できるかどうか、空白期間ができてしまうということになるのかわからないですけども、そうしないとうまく結果を取り込んだものにはできないかなとは思っていますね。

【佐藤会長】 そうですね。

【事務局（深草）】 今回の計画期間は4年ということで、市の計画基本構想10年、後期5年となっているんですけども、基本構想の最終年度に合わせる形で今回計画を4年という形をとっておりますので、また次の基本構想のスタートの時期に合わせて、男女の計画が第6次に、33年からでしょうか、スタートいたしますので、またその計画期間が終わる前に次の計画をつくるというようにしていかないと空白期間が出てしまいます。計画期間、計画の今回4年というところなんですけど、そこは4年というのが短いのか、長いのかというところは、また計画をつくる際にはご審議をいただく点になってくるかと考

えております。

【濱野委員】 あとはそれに関連してなんですけれども、結構4年が長いような気もして、例えば今ここの第5次の計画に入っていないものというのは、例えばいったとしても、計画に入っていないからできないということになってしまうんですね、きっと。期間が長いわりに途中での修正というか、補正的なことがないので、例えば具体的に思ったのは、産休、育休の権利に対する広報はすごく進んでいると思うんですけども、逆にとる側の義務みたいな、そういう権利があれば反対に義務もあるはずなので、そういう広報のような冊子はあまり見たことがないなと思って、例えばそういうのをやったほうがいいかなと思って、4年間は計画があるからみたいなことになってしまうのかなと、そう言われて終わりかなというところで、そういうのは、「かたらい」でやればいいのかもしいかなんですけどもというのはちょっと思いましたね、この計画のスケジュールに関していうと。

【佐藤会長】 ありがとうございます。瀬上委員、いかがですか。

【瀬上委員】 数制的なこととか、具体的な事業の内容とかは細かく書いてあるので、わかりやすくなっていると思います。ただ、相談事業とか、DVの内容について、具体的には昨年と同様の取り組みとか、そういうだから、もうちょっと大ざっぱでも今の特徴とか、そういうのを書いてほしいなと、大まかな傾向ですか。

【事務局（深草）】 DVについては、なかなかどこまで情報をというところが難しい部分がありまして、そこは各団体と連携をとりながらというところもある中で、書ける部分というのが比較的少なくなってきたという状況はございます。

【佐藤会長】 どうですか、瀬上委員、よろしいですか。

【瀬上委員】 しょうがないですかね。

【佐藤会長】 それでは、本川委員、どうぞ。

【本川委員】 あまり具体的なことではないですけども、今これをずっと拝見していて、数字が出ているとか、出していないとか、それからパーセントであったりとか、いろいろ出ていますよね。今ほかのところでは第5次後期でしたっけ。

【事務局（深草）】 現在は後期になっております。しあわせプランです。

【本川委員】 今やっているところですよ。各審議会でも審議しているところで、そこに男女共同参画が、どういう距離がなく、できていくかなというのを考えたときに、今のことが多分ベースになってくるだろうなとは思っているんです。市庁舎とか、それからいろいろなことを今組み立てている中で、少なくとも2つの審議会からの情報なんですけ

れども、今検討していることの中に情報の共有という部分が取り上げられて、提言したり、それから議題にのせたりして、これからどうしていくかというようなことで、やっていると聞いているんですね。それで、DVのこととか、そういうこともみんないろいろなことを、それは表に出すのはとても難しいことなんですけれども、何かしたいときに、あっちへ行ってください、こっちへ行ってくださいというようなことが、非常に市の中の縦割りの部分でなっていて、市民が情報をとるのにとってもやりにくい、目的のところまで行きつかないといえますか。それからホームページなどでも、堪能な方は、それに不自由を感じていらっしゃらないのかもわからないけれども、自分が求めているところへ行くまでの間にとっても時間がかかって、複雑で、やりにくいというようなことがあるように思っているし、聞いてもいます。なので、情報の共有の部分で男女共同参画も他の部署と必要なところについて、何か構築できるようなことを次の基本構想が始まるまでの間に何か、審議会として、今のことも含めて考えていけるといいのではないかと思います。あまり後になってくると間に合わなくなるという、さっきの濱野委員の意見にもありますけれども、そういう先を見て議題として取り上げていくというのも大事なことはないかなと考えさせていただきます。

報告書のことについても、こういうのもあるけれども、情報として出てしまうと困るんですかね、こういうのもね。データでもらってしまっ、どうとかというのは。これはデータでみんな来ているんですか。

【事務局（深草）】 こちらの青い冊子につきましては、ホームページで公開しております。

【本川委員】 別にまずいわけでも何でもありませんね。

【事務局（深草）】 本日お配りした参考資料と書いてございますものは、それぞれの皆様のご意見というような内容が含まれておりますので、公開は現在はおしておりません。

【本川委員】 わかりました。そういうこともあって、報告書も有意義な形で活用できるように、そして男女平等推進審議会として伝えたいことは、こういうことなんだということがわかるような形でフィードバックしたり、何かができるといいかなと思っています。

以上です。

【佐藤会長】 ありがとうございます。じゃ、松本委員、最後をお願いします。

【松本委員】 重複してしまうかもしれないんですけども、具体的な数値があると評価させていただく際、状況が解りやすく判断がしやすいように思います。例えば、3ページ

21番の健康課の2名増員の箇所ですが

【事務局（深草）】 事業番号が21番ですね。

【松本委員】 そうですね。3ページの事業番号21なんですけれども、例えば今年は2名増員して新たにこういう取組みを行ったなど、具体的に書いていただくですとか、25番のパンフレットの郵送枚数、29番の相談会参加人数など書いていただくと、今後データが蓄積した際に、この月には相談回数が多いなど、そういうった情報が得られてくるのではと思います。

【佐藤会長】 ありがとうございます。よいところというのは、いろいろあると思いますが、悪いところというのは、うまくいっばい出てきたので、それをまとめてということですので、意見交換はこの程度にとどめたいと思います。

本日の審議内容をまとめたいと思いますが、評価できた点というのは、先ほどの1枚に続いて新しい点が評価できるとか、それから、今日のような内容を書いてもえばいいとか、それから、例年より変化したということを書く、あるいは相談とか、そういうようなところでは、昨年同様となっているんだけど、もうちょっとできないかということ、本川委員では、情報の共有ということで、全般的なところを見据えた上でやっていきたい、これは評価ですね。松本委員は、具体的な数値がいいのではないかというようなことでしたけれども、この報告書に載せるのは、ホームページに載せますので、例えばDVなんかで載せられない部分もあるかもしれませんので、そこら辺はまた調整していただきたいと思いますが、評価できた点、努力する、要するにだから数字を出していないところで出せるところはできるだけ出してほしい、それから、効果のところ、なぜBにしたのか、なぜAにしたのか、そのなぜならばというところを書いてほしいということですね。そこがちょっとばらばらになっていて、不十分なところもあったというところですよ。

今後の事業評価をしていく上では、改善点というのは、今回のあれではなかなかできない点があるかなと思いますので、12月に第3回がありますが、そこまでに評価の仕方についても考えていただきたいなと思います。副会長何かありますか。

【遠座副会長】 次回はまたこれを、ここで合意を得て完成させるというようなことでしょうか。

【事務局（深草）】 本日、資料としてお渡しさせていただいておりますこちらの提言書ですね。

【佐藤会長】 提言書ですね。推進と、それから審議の経過については、いいと思うん

ですけれども、3枚目の3番で、評価方法について引き続き検討を行うというのが、今度の12月でどれくらいできるかわからないんですが、評価方法については検討を行いたいという感じになってはおります。ご意見か何か。

【遠座副会長】 いえ、意見はいろいろ言ってくださったので、大丈夫なんですけれども、本日出たご意見をもとに、事務局と会長と私で、また次の回にもう少し具体的な、今日、特に審議の経過の(1)の部分ですかね。平成28年度実績に対する評価及び意見をもう少し具体的な記述にして、そのときにそれを見ていただいて、次回はここはもう少し変えてほしいとか、言ってほしいとかということをご意見いただくようなイメージでよろしいですか。

【佐藤会長】 そうですね。

【遠座副会長】 私は確認させていただければ、大丈夫です。

(2) その他

【佐藤会長】 何か最後にご意見がありましたら、ご自由におっしゃっていただきたいんですけれども、よろしいですか。大丈夫ですか。

【濱野委員】 全体的なんですけれども、書類が大変過ぎるんじゃないかなと、もっとこういう書類づくりの作業を軽減して、少しほかの実際にやるところにもっと余裕を持って力を割けるように、あまり細かいこと過ぎないほうがいいんじゃないかなとは、全体として思いました。全体としてですけれども、確かにこれも大事だとは思うんですけれども、外に出るものなので、世の中全体がそうってきているので、ここだけじゃないと思うんですけれどもね。

以上です。

【佐藤会長】 そうですね。ただ、全般的に事業が多いことは確かですよ。だから本当にこんなことができるのかと考えてしまうこともありますので、そこら辺も含めて次回またご意見をいただきたいと思いますので。

【遠座副会長】 主目的と副目的みたいなものを分けて、関連事業についてはもう少し簡易的な評価の仕方を考えると、そういうのもあると思います。

【佐藤会長】 そうですね。皆様、12月までにまた考えていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

4 閉会

【佐藤会長】 それでは、以上をもちまして本日の審議会の会議を終了させていただきます。お疲れさまでございました。

【事務局（深草）】 では、事務局より事務連絡をさせていただきます。第11回、次回の審議会の日程についてなんですけれども、ご提出いただきました日程表と、あと本日欠席されていらっしゃる方々の日程と、あと会議室等の関係もございますので、そちらを調整させていただいた上で後日メールにてお送りさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【佐藤会長】 ありがとうございます。なお、傍聴席の方、ありがとうございます。

— 了 —